

強者の戦略

2019年度 東大地理 第3問 [解答解説編]

いかがでしたか？とても難しかったと思います。日本のことをすみずみまで知らなくても、出題されている表・リード文のどこを見て、どういう風に答えるのか、という東大解答作成のコツさえ知っていれば、合格点までたどり着けると思います。

地理的な知識を本番までにたくさん身につけることも大切ですが、本番にそれを発揮できなければ無用の長物ですよ。どうやって発揮するのか、解説をよくご覧ください！

【解答】

設問A

- (1) 優秀な大学や人材が存在し、かつ人口集中を背景に情報も集積する東京都で知識情報化が進み、その他の地域との格差が広がる。(58字)
- (2) 人口流出で高齢化が進み、介護施設や病院などでの就業率は高いが、製造業の不振によって若年層にとって魅力が薄れている。(57字)
- (3) 震災・原発事故の影響で製造業が衰退、観光客が減少して宿泊業なども低迷したが、復興事業のために建設業が活発となった。(57字)
- (4) 大消費市場から離れていて製造業は不振であるが、豊かな自然環境を生かした宿泊業、公共事業に代表される建設業が盛んである。(59字)

設問B

- (1) A-② B-⑤ C-①
- (2) 宅地開発時期に入居した団塊の世代の高齢化と若年層の流出。(28字)
- (3) D半島では距離の近接するアジア向け輸出用の半導体を中心とするハイテク産業、E半島では伝統的な歴史・食・文化を生かして外国人誘致を行う観光業が活性化し、ともにグローバル化が進んだ。(89字)

【解説】

設問A

表3-1には様々な指標が書かれていますが、こういう表の問題を解く時の心構えは、「**すべての指標は何らかの形で設問とつながっている**」です。たとえ答案の中にその指標が出てこなかったとしても、思考の途上で必ず登場します。他大学はどうか知りませんが、天下の東大ですから、作問者が不必要な指標をむやみに入れることはないだろうとっておいてください。なので、(1)~(4)の解答を考える際、自分の最初に思った流れが短く、稚拙なものであったなら、他の指標を見て新たな思考を巡らせてみてください。解答にたどり着く道が見つかるかもしれませんよ。

- (1)問題文の「知識経済化・情報社会化の進展が加速している」という部分は、[情報通信業]と[学術研究、専門・技術サービス業]の数値を見なさいよ、という回りくどい言い方ですよ。では、実際に2010年から2015年でどう変わったのか見てみましょう。

表3-1

2010年

	宿泊業、飲食サービス業	製造業	情報通信業	学術研究、専門・技術サービス業	医療、福祉	建設業
北海道	6.2	8.1	1.6	2.6	11.6	8.9
福島県	5.5	20.1	0.9	2.0	10.2	9.0
東京都	6.1	9.8	7.0	5.2	8.0	5.4
滋賀県	5.2	26.5	1.2	2.7	9.8	6.2
大阪府	5.9	15.9	2.7	3.2	10.6	6.8
高知県	6.0	8.6	1.1	2.2	14.9	8.3
沖縄県	8.1	4.8	2.0	2.8	12.1	9.2

単位：%

2015年

	宿泊業、飲食サービス業	製造業	情報通信業	学術研究、専門・技術サービス業	医療、福祉	建設業
北海道	6.0	8.4	+0.1 1.7	2.6	13.4	8.4
福島県	5.1	18.5	0.9	+0.4 2.4	11.2	10.8
東京都	5.7	10.1	+0.6 7.6	+0.4 5.6	9.2	5.2
滋賀県	5.2	26.7	1.2	-0.1 2.6	11.6	5.9
大阪府	5.6	15.7	+0.1 2.8	3.2	12.1	6.5
高知県	5.7	8.4	1.1	+0.2 2.4	16.8	8.1
沖縄県	7.8	4.9	+0.2 2.2	+0.1 2.9	13.9	8.9

単位：%

強者の戦略

増えた数値には+を、減った数値には-を付けました。結果、困ったことになりました。こういう問題は、**人口が集中し、情報も集中しやすい大都市で情報化が進み、正反対の過疎地域で情報化が遅れていく(デジタルデバイド)状況を述べる問題が典型的**です。しかし、大都市の大阪でさえ情報化が進展していくようには見えず、過疎地域も目立って遅れていくようにも見えません。ただ、東京だけが両分野とも+の幅が大きいことだけが目立っています。なので、ここでは東京の情報化が進展する理由を、「人口集中→情報集中」以上の内容を盛り込んで一極集中する様を示し、他地域との格差が広がっていくという方向で述べることにします。

ふと思いましたが、大胆な問題ですね。たった7つの都道府県のデータだけで、「全国レベルでどのような地域的変化が生じていくと考えられるか」を聞いているわけですからね。でも、この7つの選定は素晴らしい選定ですよ。大都市の代表として東京都と大阪府、ベッドタウンの代表として滋賀県、過疎地域の代表として福島県(東日本大震災)と高知県、本州から離れた北海道と沖縄県を選び出し、ちょうど滋賀県を境に北と南に分けるように掲載されています。感服しますね。

(2) 問題文にある通り、[医療, 福祉]の就業者率が高い都道府県を見てみましょう。上位の3つの都道府県は北海道・高知県・沖縄県になります。最初に浮かんでくる解答は、**過疎化・高齢化が進んでいる地域では、高齢者向けの介護施設などが必要となり、[医療, 福祉]に就業する人が多くなる**、ではないでしょうか?確かに高知県の65歳以上人口割合は33.9%(2018年)で非常に高いですが、沖縄県では20.8%(2018年)程度で低くなっています。ということは、**この問題の解答根拠は他にもあるのではないかと疑ってください**。そして、他の指標に目を移してください。(1)で使用した[情報通信業]と[学術研究, 専門・技術サービス業]の指標以外で、何かヒントを探します。北海道・高知県・沖縄県で共通して低く

なっている指標は[製造業]です。この段階で、[製造業]が盛んではないために、[医療, 福祉]に就業する人が多くなっていることに気づきましょう。

2015年

	宿泊業、飲食サービス業	製造業	情報通信業	学術研究、専門・技術サービス業	医療、福祉	建設業
北海道	6.0	8.4	1.7	2.6	13.4	8.4
福島県	5.1	18.5	0.9	2.4	11.2	10.8
東京都	5.7	10.1	7.6	5.6	9.2	5.2
滋賀県	5.2	26.7	1.2	2.6	11.6	5.9
大阪府	5.6	15.7	2.8	3.2	12.1	6.5
高知県	5.7	8.4	1.1	2.4	16.8	8.1
沖縄県	7.8	4.9	2.2	2.9	13.9	8.9

単位：%

(3) この問題は比較的簡単だと思います。個人的見解ですが、回りくどく「被災地の産業構造」って書かずに、素直に「福島県の産業構造」と書いてくれたらいいのになと思います。ここで福島県以外の県を見ているような人は東大を受験していないと思います。

表から読み取れる福島県の変化は、[宿泊業, 飲食サービス業]と[製造業]で低下、[学術研究, 専門・技術サービス業]、[医療, 福祉]、[建設業]で上昇しています。(1)で使用した[情報通信業]には触れなくて良いでしょう。素直に考えると、「東日本大震災で工場や宿泊施設や飲食店が被害を受けて[製造業]と[宿泊業, 飲食サービス業]で低下し、復興事業を推進するために[建設業]で上昇した」となります。ここで今まで使っていなかった[建設業]を含めることができ喜ばしい限りです。

[学術研究, 専門・技術サービス業]で述べることも可能です。震災後は、福島県復興計画の重点プロジェクトの1つとして「医療関連産業集積プロジェクト」が位置づけられており、放射線医学の研究や治療技術に関する医療機器、医療・福祉用の支援ロボットなど最先端の医療機器開発や医薬品開発の拠点整備に力を入れています。また、同様に重点プロジェクトの1つである「県民の心身の健康を守るプロジェクト」では最先端医療提供体制の整備を掲げており、現在建設が進められている「ふくしま国際

強者の戦略

医療科学センター」は、医療体制の提供のみならず、県民の長期的な健康調査、医療人の育成、医療界と産業界の橋渡しなど、復興に向けた医療拠点としての役割が期待されています。また、震災に伴い発生した原子力発電所事故による甚大な被害を受けた福島県は、原子力発電に依存しない社会づくりを目指すため、再生可能エネルギーの推進を福島県復興計画の重点プロジェクトに位置づけるとともに、それまでの「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を見直し、再生可能エネルギーの飛躍的な推進に向けた取り組みを開始しました。

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/109414.pdf> 参照)

(4)この問題は書きにくいです。(2)で北海道と沖縄の特徴を結構述べていますからね。[製造業]が停滞しているので、[医療、福祉]に就業する人が多いと書いたら、同じ文章が2つ並ぶこととなります。もう少しアレンジを加える必要があります。とりあえず、[宿泊業、飲食サービス業]に注目し、「豊かな自然環境を生かした観光業が盛ん」は入れておきたいところです。

[情報通信業]も書くことがあります。**北海道や沖縄県は人件費が安く、コールセンター産業が盛んです。**コールセンター業務は電話対応オペレーターをイメージしてもらえればいいですが、電話代などにかかる経費は少なく、もっぱらオペレーターの人件費に経費が割かれます。なので、本州の中心部から離れて産業が発達しにくい両地域では、コールセンター産業は発達しやすいと言えます。特に沖縄県は1998年に「沖縄マルチメディアアイランド構想」をまとめ、コールセンター誘致に取り組んできました。アメリカのコールセンターがインドに立地しているくらいですから、本州のコールセンターが沖縄県にあっても何ら不思議はないですね。

[建設業]も少し触れておきましょう。[建設業]は公共事業と大いに関係があります。一般的な家屋を建築する事業も[建設業]に入りますが、国から委託さ

れた道路整備や農村基盤整備、治山治水対策なども[建設業]に入ります。産業が発達しにくい地方圏では、この公共事業によって仕事を受注し、労働者は仕事を得て生計を立てることができるという構図が見られます。北海道や沖縄県はこの典型的な地域と言えます。

「豊かな自然環境を生かした観光業が盛ん」という解答だけが簡単で、あとは相当難しいと思うので、完答はできなくても良いでしょう。

設問B

(1) A半島の説明文で気になる部分は「大手水産会社が手がける遠洋漁業の拠点が置かれ」です。この段階で静岡県の焼津かなと思います。しかし、「あれ、焼津の位置と③(伊豆半島)の位置は違うな」とさらに思います。次に「高度成長期に大都市の通勤圏が外側に拡大するなかで、住宅地開発が盛んに進められた」が気になり始めます。大都市の通勤圏が拡大してくる可能性があるのは②しかないため、こちらが解答となります。②は三浦半島で、拠点は三崎漁港です。

B半島の判定は非常に簡単だと思います。リアス式海岸と真珠の養殖から⑤の志摩半島です。真珠王と呼ばれた御木本幸吉はご存じですか？

C半島は「核燃料廃棄物関連の施設」から六ヶ所村がある①の下北半島となります。六ヶ所村は原子燃料サイクル施設などの原子力施設の他、国家石油備蓄基地や、やませを利用した風力発電基地等、エネルギー関連施設が集中しています。

一応、D半島とE半島も当てはめておこうと思います。

D半島は「海を挟んだ隣の県の農民が、ミカンの出作りをした」ことから、愛媛県に近接している⑦の国東半島と判断できます。

E半島は「伝統産業として漆器産業が盛ん」から、輪島塗が有名な能登半島(⑥)と判断できます。

(2) 1行問題にしては情報量を求められる問題です。「高齢化が進む」理由と「人口減少」の理由の2つを

強者の戦略

解答に盛り込む必要があります。でも、解答自体は東大でも京大でも頻出の内容なので、ここはスパッと書いて欲しいです。高度成長期に郊外のニュータウンに移住したのは団塊の世代であり、彼らが年月を経て高齢化し、子ども世代が独立したと考えれば良いでしょう。

(3) D半島(国東半島)とE半島(能登半島)という2つの対象に対して、[外国人・グローバル化・ハイテク産業]という3つの指定ワードがあるので、どのワードをD、Eに結びつけるのかを最初に考えなければなりません。結構難しいと思います。まず、[外国人]と[ハイテク産業]は分けた方が良さそうです。どちらかの半島に、[外国人]労働力に[ハイテク産業]を担ってもらい、と書いたとしても、もう一方の半島に[グローバル化]だけ当てはめるのは無理があります。次に[グローバル化]ですが、言い方は失礼に当たるかもしれませんが、能登半島も国東半島も地方圏に属していると思います。この地方圏にして、「世界に結びつく[グローバル化]の流れがやってきている」とまとめることが出題者の意図に沿っている気がします。このへんの嗅覚は多くの問題を解いて身につけるしかありません。頑張りましょう。

さて、[外国人]はどちらにも使えそうな気がします。では[ハイテク産業]はどうでしょう？能登半島の知識は、北陸に住んでいる人以外は頭に思い浮かびにくいと思いますが、国東半島、いや九州の知識は想起しやすいですね。「九州は、空港沿いにICなどの拠点が設定されてシリコンアイランドと呼ばれている」という知識は、東大志望者からすれば当たり前になっている知識でしょう。なので、[ハイテク産業]はD半島(国東半島)に結びつけるのが良さそうです。

ただ、この問題にはやっかいな点があります。「空港の整備によって、地域経済が大きく変わってきている」という部分です。九州の空港は1960年代から建設が進んでいますし、現在の大分空港も1970年には完成しています。にも関わらず、「大きく変わっ

てきている」というように、現在を意識した文面になっています。そこで、解答には近年経済成長が著しいアジア各国(中国など)向けの輸出が活性化しているイメージを付けて、現在らしさを含めるようにしました。

では、もう一方のE半島(能登半島)を考えていきましょう。ここでE半島の説明文を再び確認しようと思います。「従来から水産業、観光業が盛んであったが、最近ではその内容が大きく変わってきている」とあります。この文章と[外国人]というワードを考慮すると、「もともとの観光業は日本人向けだったが、[外国人]向けも意識し始めた」というように考えることができるでしょう。[外国人]向けの観光では、伝統的な農村を訪れて、そこで収穫されたものを食べたり、民家に宿泊したりする観光が流行ってきています。東京や京都という定番観光地が人気だった時代から、観光地の多角化が進む時代へと変化してきました。そこで解答では「日本の歴史・食・文化」を含めることにしました。

ちなみに、能登半島では奥能登スマート観光プロジェクト(スマートフォンを活用した「能登の里山里海」PR展開プロジェクト)というものがあります。多言語、AR(拡張現実)機能を用いた観光情報提供モデルの構築なども考えているようです。興味があったらHPを見てみてください。

(http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokuriku/shisaku/okunoto_smart_project/project_gaiyo.pdf)

以上、見てきたように、表や書かれてあるリード文などを細かく精査し、何を述べるかを綿密に考えないと高得点にはなりません。綿密に考えるためには時間が必要です。本番で受験するもう一つの科目が日本史でも世界史でも、なるべく早く終わらせて地理に時間をかけて欲しいと思います。

今回で2019年度の解説は終了です。また来年お会いしましょう！